

人生を楽に生きるためのメッセージを箸蔵寺のご住職に伺いました。

人生 応援 メッセージ

企画・制作 / 徳島新聞社営業局

筆者ご紹介

真言宗御室派別格本山
箸蔵寺 第六十四世住職
さとう せいじん
佐藤 盛仁氏

【略歴】北海道大学経済学部
経済学科卒業・総本山仁和寺内仁和密教学
院卒業。高野山大学院修士課程密教学科修
了。箸蔵寺に入山の後、徳島県教育委員会の
委員、委員長を歴任。他にも多数のキャリア教
育関連の講演実績があります。

・箸蔵寺公式サイト <http://www.hashikura.or.jp/>
・ブログ「法爾自然」 <http://www.hashikura.or.jp/blog/>

世の中を理解し、正しい判断ができることを「分別がある」という言い方をしますが、古くより仏教で使われていた分別の意味は、「物事を分けて考えること」でした。私たちは、物事を、経験や知識から、色々なグループに分けて比較することによって、「○○とはこういうものだ」と理解していきます。人に対して、色々な人と出会ったり、話を聞いたりして「男とはこういうものだ」、「子供とはこういうものだ」、「こういうタイプの人は…」などと理解することによって、人を見る目が養われていきます。

しかし、このような考え方で気をつけなければいけないことは、自分に関係あるグループのことはよく分かるけれど、関係の無いグループに関しては、知らず知らずのうちに理解や関心が薄くなってしまうことです。「自分がされて嫌なこととは、相手にもやらない。」や、「私はこれが好きだから、きつと相手も好きだろう。」という「同じことに対する心配り」は強いのですが、「私はこれは嫌いだけれど、こういうのが好きな人がいる。」とか、「私はこうしてもらえると嬉しいけれど、このようなことを喜ばない人もいる。」といった、「違うことに対する思いやり」を見失ってしまいがちです。全てを自分の尺度で見ると、世の中には自分と異なる考え方があることに気付かなくなってしまう。

また、他にも気をつけなくてはいけないことは、一度グループを分けてしまうと、それに安心して、そこから先は深く考えないようになってしまふことです。「○○とはこういうものだ。」と、いわゆるレッテルを貼ってしまうと、せっかく目の前に本人がいても、その人の本当の心に目を向けなくなってしまうこともあります。また、人は時と共に移り変わるもので、以前は当てはまっていたことも、今は当てはまらなくなっているかも知れません。

仏教では「分別よりも無分別の方が上に位置づけられています。分け隔てをして何かと比べて判断することよりも、ただ、そのものの本質を知ることが大切だとされているのです。つまり、何か比べるものがないと良さが分からないというよりも、そのものさえあれば、それだけで本当の価値を見極められるという方が素晴らしいということです。だからこそ、本当に必要なのは、目の前の人のあるがままと向き合うということなのです。

現在は、心理学や性格分析など、人を比較したり分析したりする手段が数多くあります。そこから出される答えはかなり当たっていると思えますし、そういうものを活用することは大切なことだと思います。しかし、目の前の相手とただ向き合い、直接感じるからこそ見えてくるものもあります。皆さんも、身近にいる方々の、「男」、「女」、「子供」、「ゆとり世代」、「昭和生まれ」などのグループ分けを外して、「○○の一人」ではない、あるがままに触れてみてはいかがでしょうか。そうすることにより、「子供だと思っていたら、こんなことを考えているのだな。」とか、「この人は、男性でもこんな一面があるのだな。」といった、今まで気付けなかった、その方ならではの新しい部分を発見できるかもしれません。

皆さまの ご感想を お待ちしております!



この紙面に対する感想や取り上げてほしい内容などがありましたら、お気軽にお寄せください。郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号をご記入の上、〒770-8572徳島新聞社営業局営業部「人生応援メッセージ」係までお送りください。

※お送りいただいた方の個人情報は、当社で厳重に管理し、ご本人の同意なしに第三者に開示、提供することはありません。